

会議録（要点筆記）

会議の名称	第7回葉山町立図書館あり方検討委員会
開催日時	令和2年11月24日（火）午後2時から午後4時30分
開催場所	葉山町教育総合センター 2階 研修室
委員出席者	千委員長、大塚副委員長、新井委員、植田委員、中世委員
事務局	中川生涯学習課長兼図書館長、中村館長補佐、木下副主幹、山口主査、鈴木非常勤司書、森非常勤司書
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 第7回葉山町立図書館あり方検討委員会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 開会 (2) 議 事 <ol style="list-style-type: none"> ① 前回委員会意見のとりまとめ ② 「今後の葉山町立図書館のあり方について（答申）」（案）について 2 閉 会
会議資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 第7回葉山町立図書館あり方検討委員会次第 2 第6回会議録 3 前回委員会意見まとめと変更点について 4 今後の葉山町立図書館のあり方について（答申）案 5 葉山町立図書館あり方検討委員会委員名簿
議事録の作成方法	要点筆記
記載内容の確認方法	出席した委員全員の確認を得ている。
公開・非公開の別	公開
傍聴者数	なし

1 第7回葉山町立図書館あり方検討委員会

(1) 開会

事務局より資料の確認と本日の出席委員は5名で、葉山町立図書館あり方検討委員会規則第5条の規定に基づき、過半数に達していることが報告された。また、傍聴人がいないことの報告があった。

(2) 議 事

議事1 前回委員会の意見のとりまとめ

委員長：それでは、次第に従って進めていく。事務局から説明を。

事務局：資料に基づいて説明。

委員長：次の議事の素案でまとめて意見を頂くこととする。

議事2 「今後の葉山町立図書館のあり方について（答申）素案」について

委員長：では事務局の方から説明を。

事務局：資料に基づいて説明。

委員長：葉山町立図書館の現状と課題の部分、連携、協働の部分で変更点を中心に説明があったが気付いた点、意見等をお願いする。

前回の部分でも、図書館活動と関わりのある団体から連携をスタートしていこうという具体的な方策が出ていたので、あっても良いと思う。実際にそういうことを行っている話も聞いたので、前回の図書館活動との関わりがある団体との連携をスタートするとしたほうが良いのではないか。

委員：（ボランティアとの協働について）すごく良い書き方になったと思う。こうやったら職員だけではできない活動を行うことができるようになります、というのはすごく良いと思う。図書館活動と関わりのある団体の文言を消したのは、それ以外にもあるということか。

事務局：図書館活動の根幹となる専門的業務図書館が主体的にやらなければいけないということを示しつつ、同時に、限られた人的資源で図書館活動を広げていくためのボランティアとの協働という主旨で整理した。

委員長：地域のボランティアと関わるのは良いが、まずは図書館との何等かの関わりがある所からはじめて、前回の「いかがでしょうか」のような弱い提案は切っても良い。

事務局：そうすると、最後の下線の前にそうした例示を入れる。

委員長：例えば図書館の活動と関わりのある団体との連携からスタートするのも良いのではないか。下線部の前でも良い。色々な団体との連携もある。

委員：やはり、図書館活動と関わりのある団体を入れた方が良いでしょう。

委員長：前回の文書を入れる方向でお願いします。他に意見はあるか。次に3の④からの説明をお願いします。

事務局：3の④について説明

委員長：④については GIGA スクールの所が大きく変わった。気付いた点何かあるか。ちなみに、図書館のホームページに子ども向けのページはあるか。

事務局：こども向けといえるほどの内容ではないが、今まで展示とおはなし会など、大人と子どものコンテンツがゴチャゴチャになっていた所を、「こどものコーナー」と「展示・催し」に整理し、一般向けの特集などは「展示・催し」で案内している。スタンプラリーなど、来年度出来そうであれば、そちらが「こどものコーナー」に掲載する。

委員長：大きな図書館にあるような子ども専用のホームページが無い。

事務局：ホームページのフォーマットがタグで選択できる構造でないので難しい。

委員長：子どもが読みやすいページでないといけないと思うので、少し検討して欲しい。GIGA スクールで、学校で調べものをする時に図書館のページを見てみようとした時に子どものページがあると違うと思う。後は今後端末をどう使うかなど具体が決まってからになる。GIGA スクールの広がりの中で、図書館で何か連携活用を考えていかないとならない。

事務局：GIGA スクールはこれからどのように活用していくかという所で試行錯誤している状況もあり、そのあたりを見定めてから提案していく。

委員長：OPAC のリンクで終わってしまうだけではどうか。学校で実施するなら図書館も何か連動して取り組めればと思う。具体的なことを挙げられないのは承知しているが、もう少し記載があっても良い。他に意見はあるか。

委員：他の子ども向けのサイトを調べて、図書館のホームページにアクセスできるようにするのは一歩前進ではないか。

委員：GIGA スクール構想との関連で、何をしようとするのか。

委員長：学校に団体貸出に行くのが一番良い。

委員：GIGA スクール構想の中に図書館も入っていると考えてもらえれば、一番良いのではないか。図書館と連携することが大事だということを理解してもらいたい。

事務局：GIGA スクール構想における図書館のスタンスは検討する。

委員長：他に何かあるか。

委員：インターネットを活用したサービスだけが利用者サービスで、他は町民サービスになっている。

委員：3の①が町民サービスで、②は利用者サービスになっている。

委員長：町民サービスと利用者サービスが混在している。インターネットだから町民に限らないからか。

事務局：図書館サービスにするのが一番よいと思う。インターネットを活用した図書館サービスは分かりにくいかもしれない。

委員長：図書館サービスの一つなので、SNSの発信も大きな意味では図書館サービス、利用者サービスとも言える。町民にスポットライトを当てたければ、町民サービス。合わせた方が良いか。

委員：相互連携しているので借りるのは町民だけではないが、町としてやるべきことは町民に対するサービスを充実させたいことで、あえて町民にしているのであればインターネットも町民ではないか。

委員長：合わせた方が良い。利用者サービスも図書館サービスもとくに使い分けはしてはいないのでどちらでも良い。町のあり方委員会なので町民サービスでも良いと思う。

事務局：基本は町民サービスで揺るがない。町外に関しては相互連携の中で町民を受け入れてもらう代わりにこちらも行うという趣旨で、そこは町民サービスの拡大の延長という理解だ。両方、町民サービスとするか。

委員長：インターネット活用した町民サービスの提供か。

委員：インターネットを活用したサービスでいいのではないか。

委員長：町民サービスと書いてある所は、フェイストゥフェイスのサービスが中心なので、そのまま活かすか。

委員：入れない方が良い。

委員長：インターネットの所は、サービスだけにする。では、タイトルの見出しの所は「インターネットを活用したサービスの提供」とする。

事務局：⑤運営体制と施設設備の説明

委員長：⑤について、何か気付いた点はあるか。忌憚のない意見を頂きたい。

委員：専門的職員の配置の部分で、5行目だけ「葉山町」の「町」が抜けている。「町」を入れた方が良いのではないか。

委員長：些細なことだが、「嘱託職員や臨時職員」は、今年から会計年度職員の方が良いのではないか。

委員：配置の見直しについては非常に苦勞されたと思うが、「児童書コーナー・おはなしコーナーと学習室を入れ替え」の部分について、全体の意図と少し違うのではないか。こういうことがあるから中々難しいと取れる。この部分は、今回の委員会で一番面白い所なので、あまり否定的にならない書き方が良いのではないか。

委員長：確かにレイアウトの話は議論していても、皆さんの意見を頂いて盛り上がった所。検討すると色々課題があるが、否定形ではない表現が良

い。

委員：これだと否定になるので、やらなくても良いになってしまう。読んだ人が面白いことを言っていると、課題はあるが考えてみようとするところに繋がっていくような、例えばランニングコストについても、考え方が変われば、大して大きくなるのではないか。

委員長：例えば、「検討は可能ですが」ではなく「検討は出来ると思います。ただ一方でこういう課題があります。」という表現の方が前向きになると思う。我々としては、利用者が使い易くなる形のレイアウトは、こういうのがあるのではないかと、という所なので、文面は検討して頂きたい。

事務局：学習室と児童書コーナーの入替で最初に掲げた課題を解決できると考えたが、ランニングコストの問題だけでなく、うまく解決しきれないということがある。

委員長：提案で考えたが、こういった課題とか行うには障壁があったりするもので、市民の声とともに費用対効果も変わってくると思う。

委員：学習室の入れ替えを検討した、一番の目的は開架が狭いからだと思うが、これだと三本立てになって、開架が狭い、小さな子ども達にする読み聞かせのスペースで大きい声が出せない、学習室が有効活用されていない、だからこれを考えましたみたいになっているが、そうした話ではなかったのでは。

委員長：学習室があまり使われてないなら向こうに入れる話はそもそもなかった。どのような話だったか。

事務局：閲覧席が不足していることで、閲覧席の不足を解消する提案ではあるが、学習室の有効活用も課題の一つ。児童コーナーのこととあわせ、3つの課題を解決するための案として出ている。しかしシミュレーションを行ってみると開架書架が減ってしまう。

委員：検討した結果そうだったということ。

事務局：そこがあったので、当初の課題を解決できない点がありながら、強く押すようになってしまうので、トーンを弱める表現になった。ただ、シミュレーションでは既製品の書架で行っているので、専門的な書架配置などでもう少し開架書架数を確保する方法も考えられる。それを踏まえて書架数を減らさなければならないという書き方を改めるか。学習室が児童書コーナーより狭いことは事実だが、書架数を減らさなければならないとは言い切れない。そうすると今のご議論と整合性は出てくる。

委員長：実際にレイアウトしないとわからない。「書架を減らさなければならないことは絶対です」のような形なので、書架数の問題とか配架冊数の問題も再度検討しなければならない。

事務局：配架書架を例えば施設に合わせて造りつけるなどの方法も考えられる。コストがさらにかかるとなるが、減らさなければならないという書き方は強すぎるかもしれない。ここの書き方を変えることで整合性は取れるが、費用対効果を踏まえて、という文言は必要だ。

委員長：それは考えないといけないし、利用者の声も聞かなければいけないので、そこは残しておいて頂く。他に何かあるか。

事務局：2階の和室が36畳あり、大きいので、分割してうまく使えないか検討したところ、壁にドアを付けて2つに分けることは可能だが、改修費用がかなりかかるということで正直厳しい。

委員長：実際の稼働率も低いとは言えないが、図書館に求められている機能の確保もいるので、記述については、そちらに下駄を投げるような形になるが、何か意見はあるか。では、2階の記述は原案の通り進める。では、最後の部分、事務局より説明をお願いします。

事務局：「町立図書館の将来のあり方について」説明

委員長：何か意見はあるか。

委員：答申として、この文章を出すのであれば、8行目の「貸出サービスに重点を置くこれまでの図書館サービスのみでは、図書館の存在意義を容易に説明できなくなります。」は入れたくない。図書館の存在意義は説明できる。

委員長：今貸出サービスだけの時代ではないということは分かるが、図書館の存在意義は変わらないと思う。「貸出サービスだけでは限界があります」等の書き方、「貸出サービスに重点を置くことは限界あります」のような表現にすれば良いのではないか。

委員：貸出サービスだけに重点を置くサービスを行っている図書館は、今は無いのではないか。貸出サービスに重点を置くのは、かつての図書館は貸出もろくにしてくれない、それが貸出サービスするようになって、30年40年前にはもう出来ていた。それが当たり前のことになったので、今、貸出かレファレンスか比較するような意見もあるが、そういうことではないと思う。

委員長：「図書館に足を運ばなくても様々な情報を容易に誰もが取得できるようになりました。」「また、少子高齢化で」のような形で間の所を削っても文章は繋がる。

事務局：「本を借りる人は減少傾向にあり」の所からカットするという事か。

委員長：「なくなりつつあります」を削除しても話は通じる。前段的な話なので無くても良いのではないか。

委員：他のサービスを行っていく必要が言いたいということか。

事務局：サードプレイスに繋げていく話。この文章を抜いて気がかりなのは、インターネットなどで、情報が容易に取得出来るようになった所を受ける文章が「地域さまざまな活動の拠点」繋がっている。おそらくこの辺のインターネットとかスマホの普及は図書館サービスと親和性が低い。

委員：「貸出サービスに重点を置く」なので、これはこれで良い。他のことも色々行っているが、結局、皆が利用するのは貸出サービスなので、存在意義を説明出来なくなるだけ変えてほしい。

事務局：ここは、言い回しを検討する。

委員長：ネットとかスマホが普及したから図書館が無くなってしまおうという議論は、ネットが出てきた時の 20 年 30 年前の話なので、逆にネットがあってもバーチャルとリアルでサードプレイスが出てくる。存在意義の所だけ削りつつ、文言を検討してほしい。

委員：ずらっと文章が書かれているので、見出しというか、見易さが欲しい。そのサードプレイスを強調するのであれば、言葉が見出しにあるとするとか体裁を考えても良いのではないか。

委員長：確かに他の所は見出しが入っている。1 ページに 3 つ 4 つ小見出しがあり、それぞれなので、「さいごに」の所、小見出しがあった方が見易い。

委員長：学校図書館の部分についても、前回出ているので良いと思う。他に意見はあるか。

委員：教育長からの諮問を受けて答申となるが、その辺の書き方はあるのか。「あり方を提言することといたしました。」とある。これは「答申させていただきます」とか約束事はあるのか。

事務局：実際には、教育委員会あての鑑文が付して提出することになる。次回チェックも含めて案を出させていただく。

委員：⑤の所で、「すべて」が重複している。最初を削除したほうがよい。

委員長：図書館の開館年数を、答申の日にあわせて統一して記述して欲しい。

委員：さいごの将来に向けての所で「安心して」の言葉を入れてもらいたい。

委員長：サードプレイスの所に反映する。他に意見はあるか。次回は最終回になる。

事務局：次回については、答申の時期と関わってくるので、事務局で日程を調整して連絡する。

委員長：議題は以上で終了とする。

(次回検討委員会は 1 月 19 日(火)or26 日(火)14 時 予定)